

2019年3月期第2四半期 決算説明会資料

名古屋鉄道株式会社

【証券コード 9048】

2018年11月22日

01

名鉄グループの今年度入り後の状況

◆連結業績

2018年度第2四半期

2018年度通期予想

	2018年度第2四半期				2018年度通期予想			
	実績	前年同期差		前回予想 (5月時点)差	今回予想	前期差		前回予想 (5月時点)差
営業収益	2,956 億円	+ 10 億円	+ 0.4 %	+ 6 億円	6,090 億円	+ 41 億円	+ 0.7 %	- 億円
営業利益	246 億円	△ 8 億円	△ 3.2 %	+ 21 億円	455 億円	△ 14 億円	△ 3.1 %	- 億円
経常利益	255 億円	△ 9 億円	△ 3.4 %	+ 25 億円	460 億円	△ 25 億円	△ 5.3 %	- 億円
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	159 億円	△ 8 億円	△ 5.2 %	+ 19 億円	270 億円	△ 16 億円	△ 5.9 %	- 億円

第2四半期決算実績ポイント

<対前年同期>

【営業収益】増収

- ・流通事業の増収
- ・運送事業の増収

【営業利益】減益

- ・天候不順の影響
- ・不動産事業の減益
- ・燃料費の増加

【四半期純利益】減益

- ・特別損益の悪化

<対前回予想>

【営業収益】増収

- ・流通事業の増収
- ・トラック運賃単価の上昇

【営業利益】増益

- ・修繕費、人件費の減少

通期予想ポイント

<対前期>

【営業収益】増収

- ・全セグメントで増収

【営業利益】減益

- ・人件費、燃料費の増加
- ・不動産事業での諸経費増加(主に修繕費)

【経常利益】減益

- ・持分法投資利益の減少

<対前回予想>

※第2四半期実績は予想に対して、上振れ着地となりましたが、原油価格の上昇、費用の下期への期ズレによる影響等に鑑み、業績予想の修正は行っておりません。

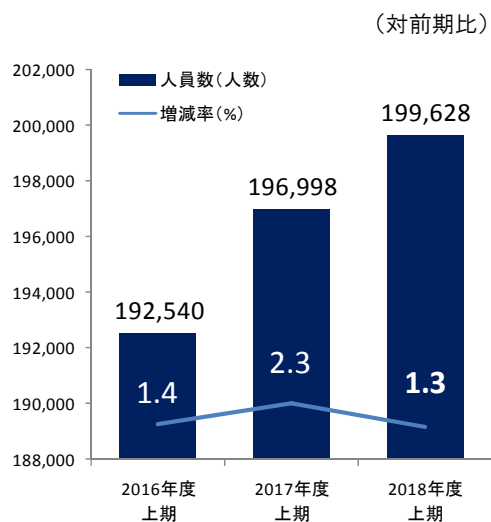
① 堅調な雇用情勢を背景とした持続的な通勤定期輸送人員の伸び

② 4度の台風や悪天候の影響を受けながらも定期外輸送人員は増加

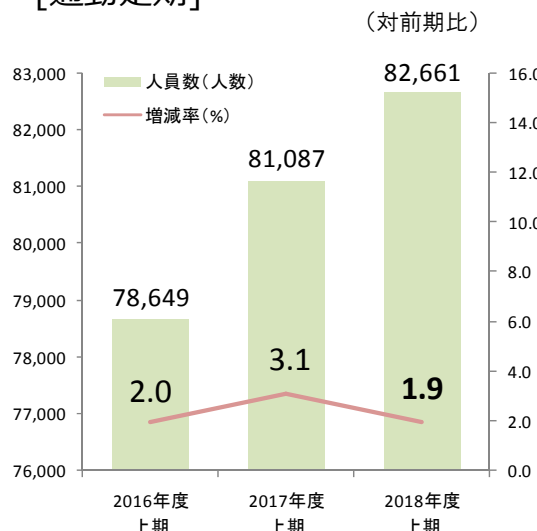
→ 空港線の定期外輸送人員の増加トレンドは継続している。

【鉄軌道輸送人員増減率推移】

[輸送人員合計]



[通勤定期]

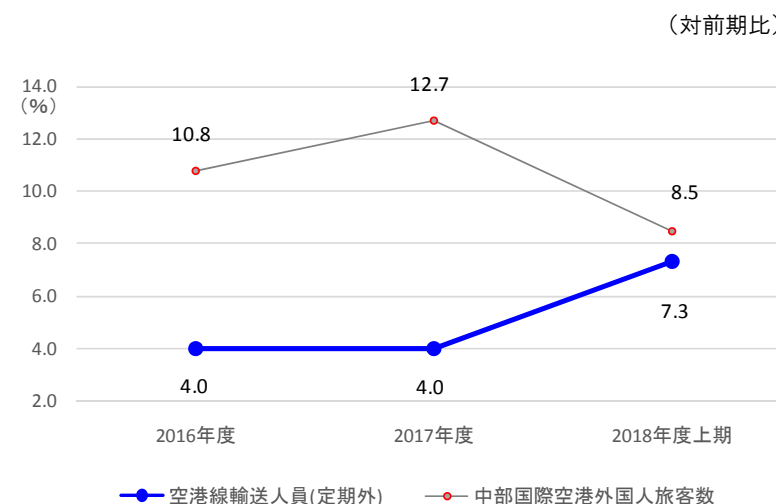


② 空港線<定期外>輸送人員増減率推移

	対前期比 (%)		
	2016年度	2017年度	2018年度 上半期
空港線	+4.0	+4.0	+7.3

・インバウンド増加に伴い
2018年度上半期は前期比で+7.3%
と堅調に推移。

【空港線輸送人員・空港外国人旅客数増減率推移】



① 三河線・西尾線<通勤定期>輸送人員増減率推移

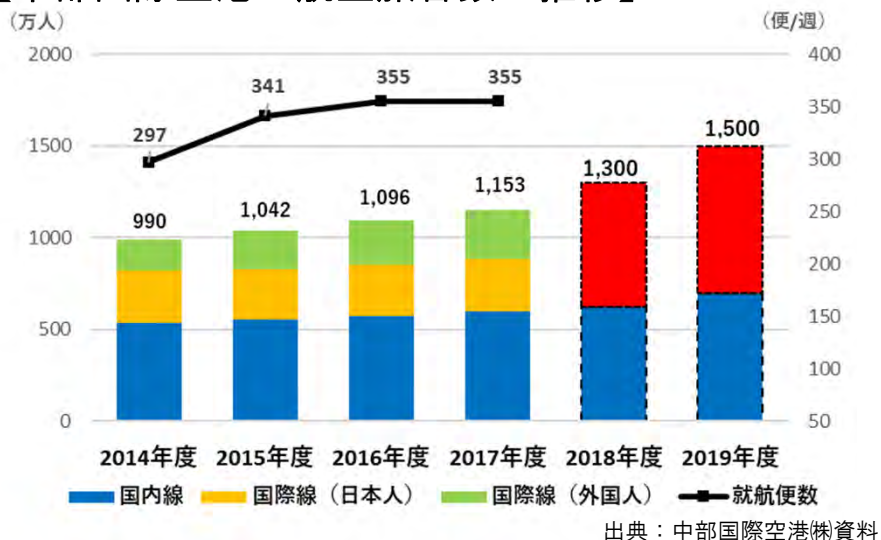
	対前期比 (%)		
	2016年度	2017年度	2018年度 上半期
三河線	+3.6	+5.3	+4.1
西尾線	+6.3	+7.9	+7.9

・三河線、西尾線など製造業生産拠点が集積する線区の通勤定期輸送人員の伸びは持続している。

出典:(中部国際空港外国人旅客数)中部国際空港(株)資料

(参考)中部国際空港および空港周辺の状況

【中部国際空港の航空旅客数の推移】



【航空ネットワーク（国際線）の拡大状況】

	就航日	地点名	便数等
ティーウェイ航空	2018年5月31日～	ソウル	7便/週で新規就航
エアプサン	2018年6月21日～	プサン	7便/週で新規就航
タイ国際航空	2018年7月1日～	バンコク	12便/週から14便/週へ増便
フィリピン航空	2018年7月12日～	セブ	3便/週から4便/週へ増便
スターフライヤー	2018年10月28日～	台北	7便/週で新規就航
タイ・エアアジアX	2018年10月30日～	バンコク	7便/週で新規就航

出典：中部国際空港(株)資料

利用人員が堅調に増加しており、特に外国人旅客は過去最高を更新している。国際線を中心に航空ネットワークも拡大しており、2019年の新ターミナル供用によりLCCなど新たな就航先の増加が見込まれる。

【中部国際空港周辺の主な開発状況】

愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」

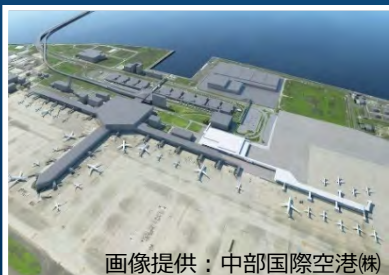
2019年9月開業予定
 展示面積：約60,000㎡
 来場者数見込み：年間250万人
 経済波及効果見込み：1,500億円



セントレアホテル新棟建設地

LCC向け新ターミナルビル

2019年度上期供用予定
 延床面積：約45,000㎡
 年間旅客取扱数：国際300万人
 国内150万人



新複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」

2018年10月開業
 延床面積：約11,000㎡
 ボーイング787初号機をメインとした複合商業施設
 日本初出店のテナントも多数



出典：中部国際空港(株)提供画像より当社作成

02

名鉄グループ中期経営計画 「BUILD UP 2020」の進捗

基本方針

2030年に向けて新たな魅力や価値を創造し、持続的に成長していく企業グループとなるため、「積極的な成長投資による事業基盤の拡大・収益力の強化」を図る。

期間

2018年度～2020年度(3カ年)

重点テーマ

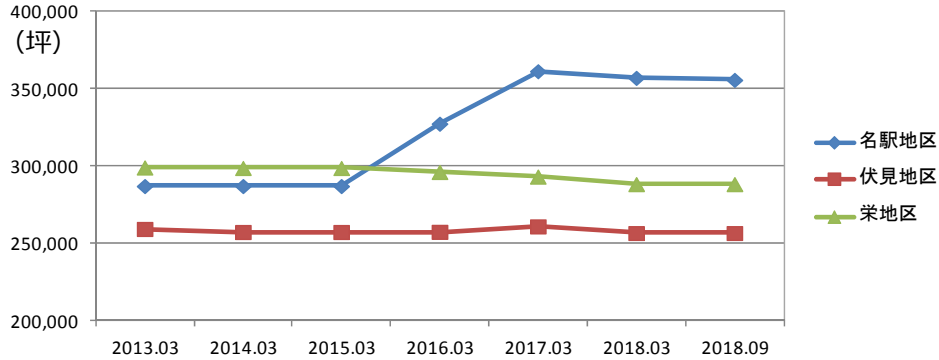
- 1 名駅再開発の事業着手に向けた計画の推進
- 2 名古屋都心部における積極的な不動産事業の展開
- 3 魅力ある沿線・地域づくりの推進
- 4 成長事業への積極的な投資と収益力の向上
- 5 グループ事業のさらなる収益力強化
- 6 イノベーションを生み出す組織風土づくりおよび生産性向上に向けた取組みの推進

名鉄名古屋駅周辺など名古屋都心部に存在する保有資産を活用し、積極的に不動産事業を展開していく。

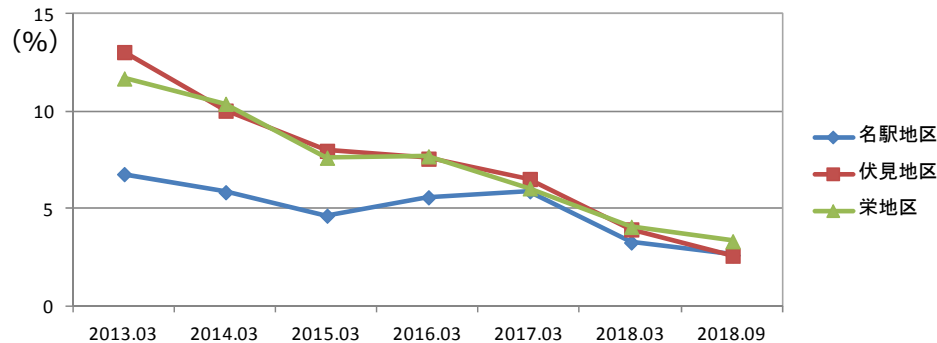


名駅地区だけでなく、伏見地区、栄地区の空室率も低下傾向にあり、名古屋都心部のオフィス需要は高まっている。栄地区近辺においては、近年再開発の動きが活性化している。

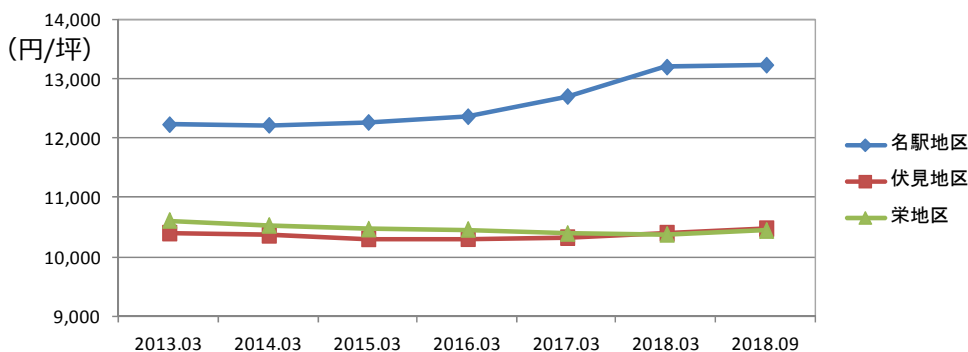
【貸室面積（坪）の推移】



【空室率/平均(%)の推移】

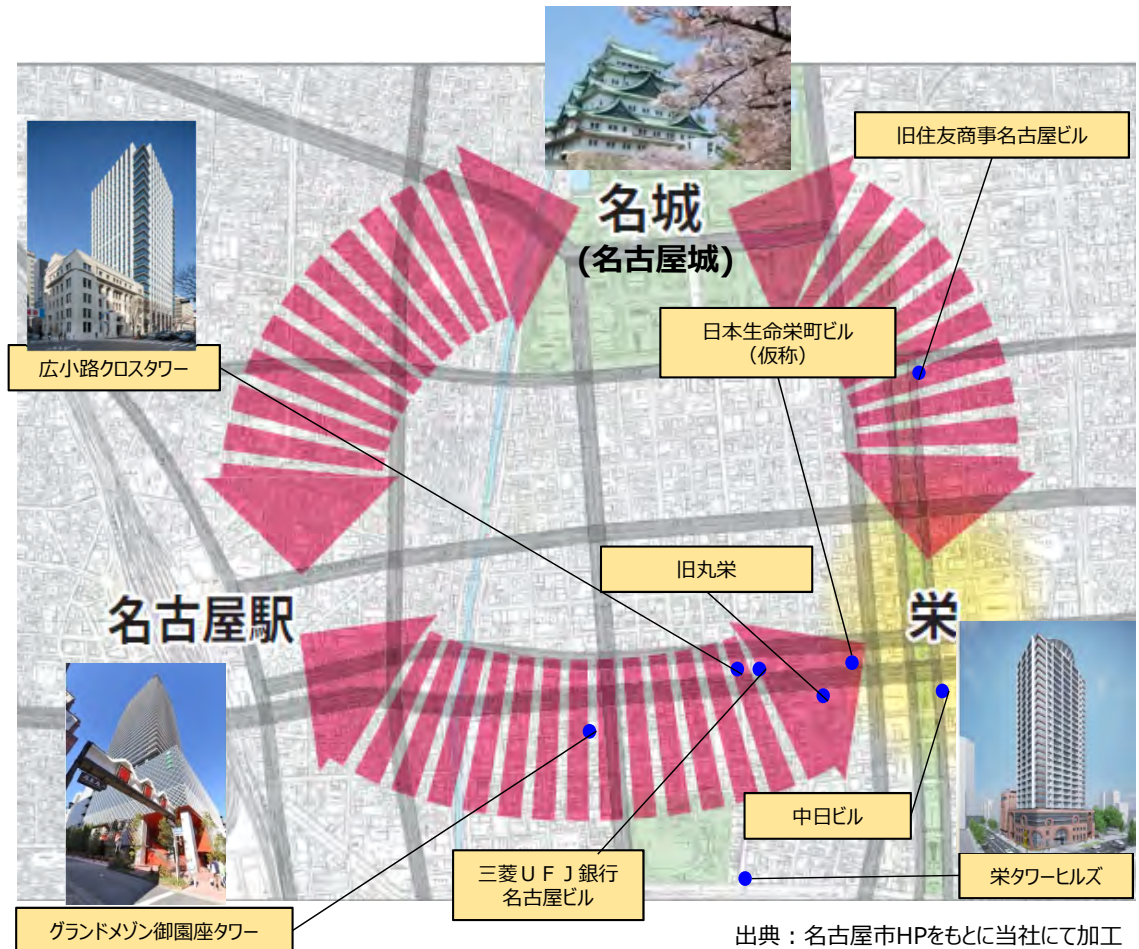


【平均賃料/平均（円/坪）の推移】



【名古屋市が取組む都心における連携強化】

名古屋市は「栄地区グランドビジョン～さかえ魅力向上方針～」(2013年策定)において、栄地区を名駅地区と合わせて名古屋の中心核と位置付け、栄地区の魅力をも高めるための取組み方針を打ち出している。都心部全体の回遊性を高めることが、名古屋全体のにぎわい向上のために重要な要素であるとしている。
また、栄地区近辺は、近年大規模な開発案件が進んでいる。(●は主な開発案件)



出典：名古屋市HPをもとに当社にて加工

駅を起点に沿線・地域の価値や利便性を高めるため、商業施設の開発・再生などの取組みを加速

◎名鉄瀬戸線 尼ヶ坂駅～清水駅間高架下開発計画
(2019年春より順次開業)



イメージパース



- ・所在地 : 名古屋市北区大杉 (名鉄瀬戸線 尼ヶ坂駅～清水駅間)
- ・敷地面積 : 約2,600㎡
- ・テナント数 : 約25店舗
- ・デザイン性の向上や地域との協働による地域資源の活用を通して、新たな魅力やにぎわい創出を目指す

資産バリューアップの推進 第二弾 (エイトデザインとの協働)

◎商業施設「μPLAT (μプラット)」

μPLAT

・μPLAT江南 (2018年9月より順次開業)



イメージパース

- 所在地 : 江南市古知野町
(名鉄犬山線 江南駅西口)
- 建物規模 : <北棟>2階建
延床面積 約730㎡
<南棟>平屋建
延床面積 約100㎡

・μPLAT常滑 (2018年10月開業)



- 所在地 : 常滑市鯉江本町
(名鉄常滑線 常滑駅前)
- 建物規模 : 平屋建
延床面積 約560㎡
※スーパーは土地賃貸

・μPLAT大曾根 (2020年春開業予定)

駅前の利便性を高め賑わいを創出することで地域の活性化に貢献

沿線での賃貸・分譲マンションの開発を通して定住人口の拡大に努める。

◎ 賃貸マンション「meLiV」の開発促進

～沿線を中心に高品質な住環境を提供～

・meLiV太田川 (2019年2月竣工予定)



所在地：東海市大田町
(名鉄常滑線太田川駅 徒歩6分)
敷地面積：2,466.28㎡
建物規模：5階建
延床面積 2,162.35㎡
住戸数：49戸

イメージパース

・meLiV大曾根 (2019年3月竣工予定)

所在地：名古屋市東区矢田
(名鉄瀬戸線大曾根駅徒歩2分)
敷地面積：248.84㎡
建物規模：10階建
延床面積 1,433.56㎡
住戸数：36戸



イメージパース

◎ 沿線における分譲マンション開発

・エムズシティ知立 ザ・タワー (2019年1月引渡開始予定)



イメージパース

所在地：知立市栄
(名鉄名古屋本線 知立駅徒歩1分)
住戸数：100戸

- ・知立駅は名古屋本線と三河線(豊田市、碧南方面)の結節点であり、高架化工事が2023年度に事業完了予定
- ・知立駅北地区第一種市街地再開発事業の住居部分として名鉄不動産が販売

・エムズシティ神宮前 (2019年9月引渡開始予定)

所在地：名古屋市熱田区
(名鉄名古屋本線 神宮前駅徒歩5分)
住戸数：186戸

- ・神宮前駅は交通利便性が高く、公園や歴史ある「熱田神宮」にも近接
- ・神宮前駅東街区の開発も控えている(2020年度内開業予定)

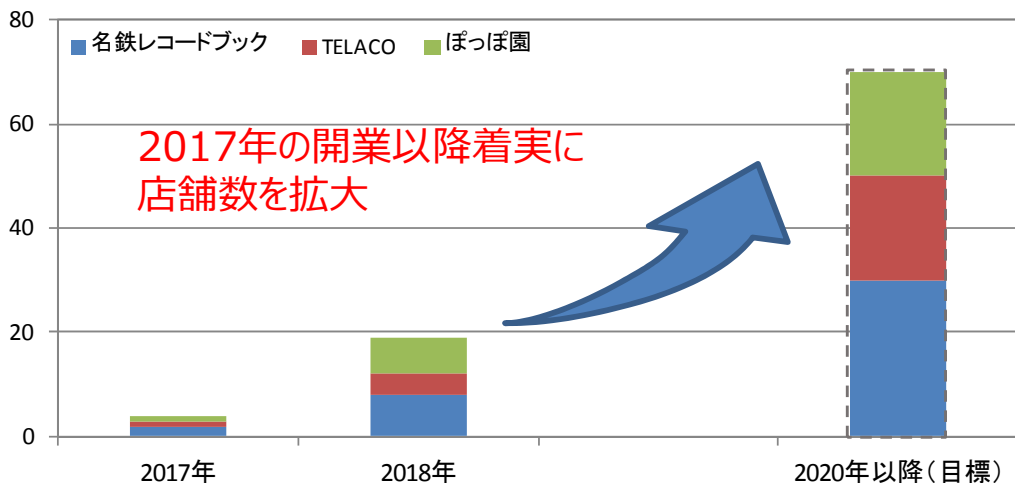


イメージパース

加速する高齢化や働く女性の増加といった社会環境の変化の中で生じる新たな需要をシニア向けや子育て世帯向けの生活サポート事業で取込み、沿線・地域価値の向上に努める。

リハビリ型デイサービス事業、子育て世帯サポート事業共に事業開始以降、着実に店舗数を拡大

【リハビリ型デイサービス・子育て世帯サポート事業店舗数推移】



◎名鉄レコードブック（リハビリ型デイサービス事業）



【直近の開店状況および予定

(2018年度以降)】

平針店	2018年4月
星ヶ丘店	2018年5月
中川四女子店	2018年6月
瓢箪山店	2018年6月
田神店	2018年10月
浅間町店	2018年11月
瑞穂八勝通店	2018年11月
金華橋店	2018年12月

**2018～2020年度の
3年間で30店舗目標**

◎TELACO（アフタースクール事業）



【直近の開校状況および予定
(2018年度以降)】

◆アフタースクール	
新瑞橋校	2019年4月
南大高校	2019年4月
白壁尼ヶ坂校	2019年4月
◆プログラミング教室	
本山校	2019年4月

将来的に20校目標

◎めいてつ保育ステーションぽっぽ園（小規模保育事業）



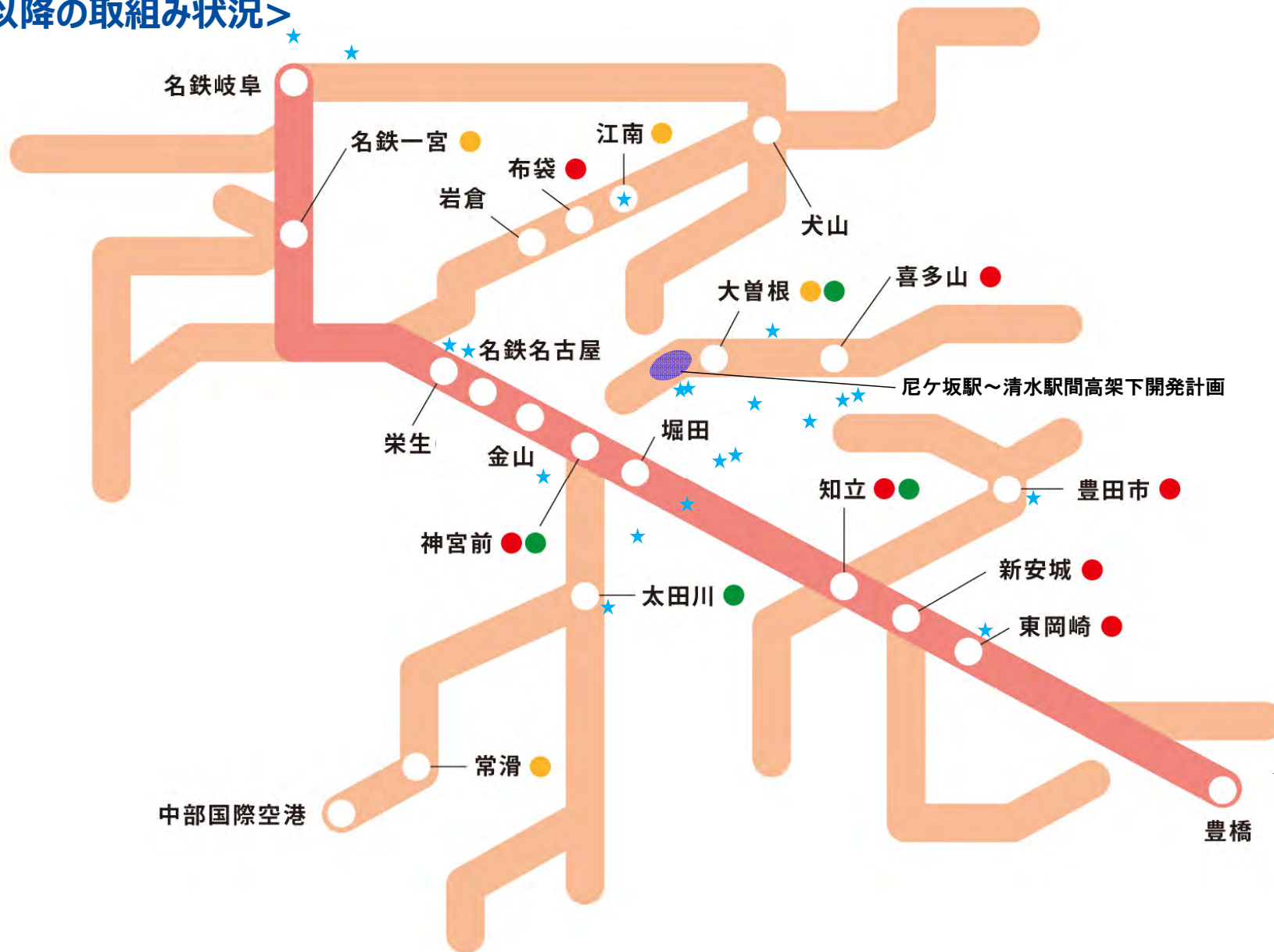
【直近の開園状況および予定

(2018年度以降)】

栄生ぽっぽ園	2018年9月
太田川ぽっぽ園	2019年2月
豊田市ぽっぽ園	2019年2月
江南ぽっぽ園	2019年2月
鳴海ぽっぽ園	2019年2月
白壁尼ヶ坂ぽっぽ園	2019年3月
本郷ぽっぽ園	2019年4月
東岡崎ぽっぽ園	2019年上期

将来的に20園目標

<2018年度以降の取組み状況>



- ・・・地域と連携した拠点駅の整備促進
- ・・・商業施設の開発・再生
- ・・・賃貸・分譲マンションの開発
- ・・・リノベーションや資産バリューアップの推進
- ★・・・沿線・地域の価値創造に向けた取組みの推進 (予防介護・保育事業、健康・レジャー事業の展開)

観光振興を進めてきた犬山エリアにおいて、ホテルの再開発を契機に地域と共同で更なる魅力の発信に取り組む。

名鉄犬山ホテル再開発計画

「ホテルインディゴ 犬山 有楽苑」 (2021年度下期開業予定)



イメージパース

客室数：150室

付帯施設：レストラン、ラウンジ、宴会場、スパ、フィットネス他

インターコンチネンタルホテルズグループ (IHG®) と提携し、中部圏初のインディゴブランドのホテルとして開業。

「ホテルインディゴ」のブランド力とノウハウを活用することによりインバウンド需要をさらに積極的に取込む。



国宝 犬山城



国宝茶室・如庵



名鉄犬山ホテルは、国宝犬山城に近接し、敷地内には日本庭園有楽苑があり、現存する国宝茶席3名席の1つである茶室「如庵」を擁している。

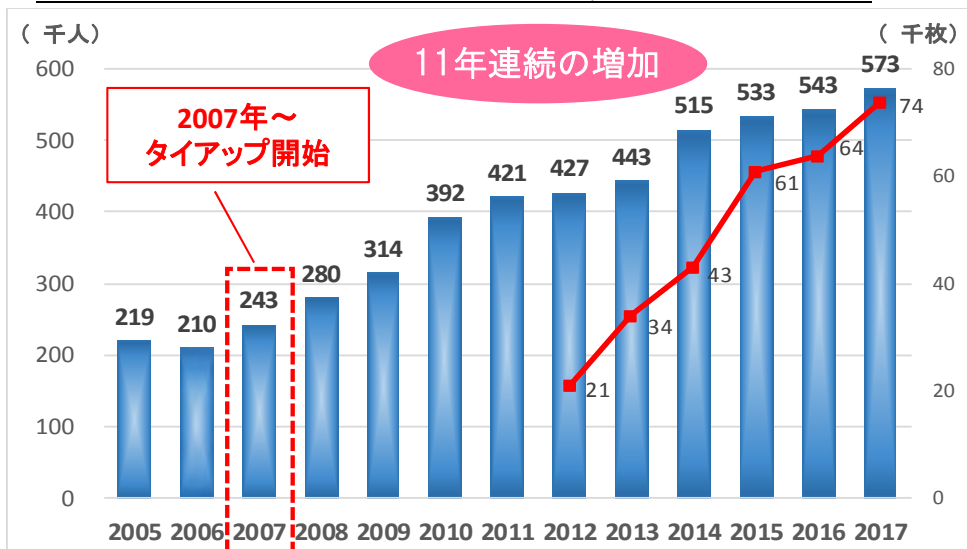
行政とのタイアップキャンペーンの実施



「本物」を求めて、
犬山へ。

犬山城や城下町の街並みを中心に、犬山ならではのグルメや見どころをPRするキャンペーンを季節ごとに実施。

犬山城入場者数と犬山方面への企画乗車券合計販売数の推移



左軸：犬山城入場者数 (1月～12月) 右軸：企画乗車券合計販売数 (4月～3月)

出典：愛知県振興部観光局 観光レクリエーション利用者統計より当社作成

沿線自治体とのタイアップにより、観光資源の魅力をも最大限に発信し、交流人口の増加を図る。

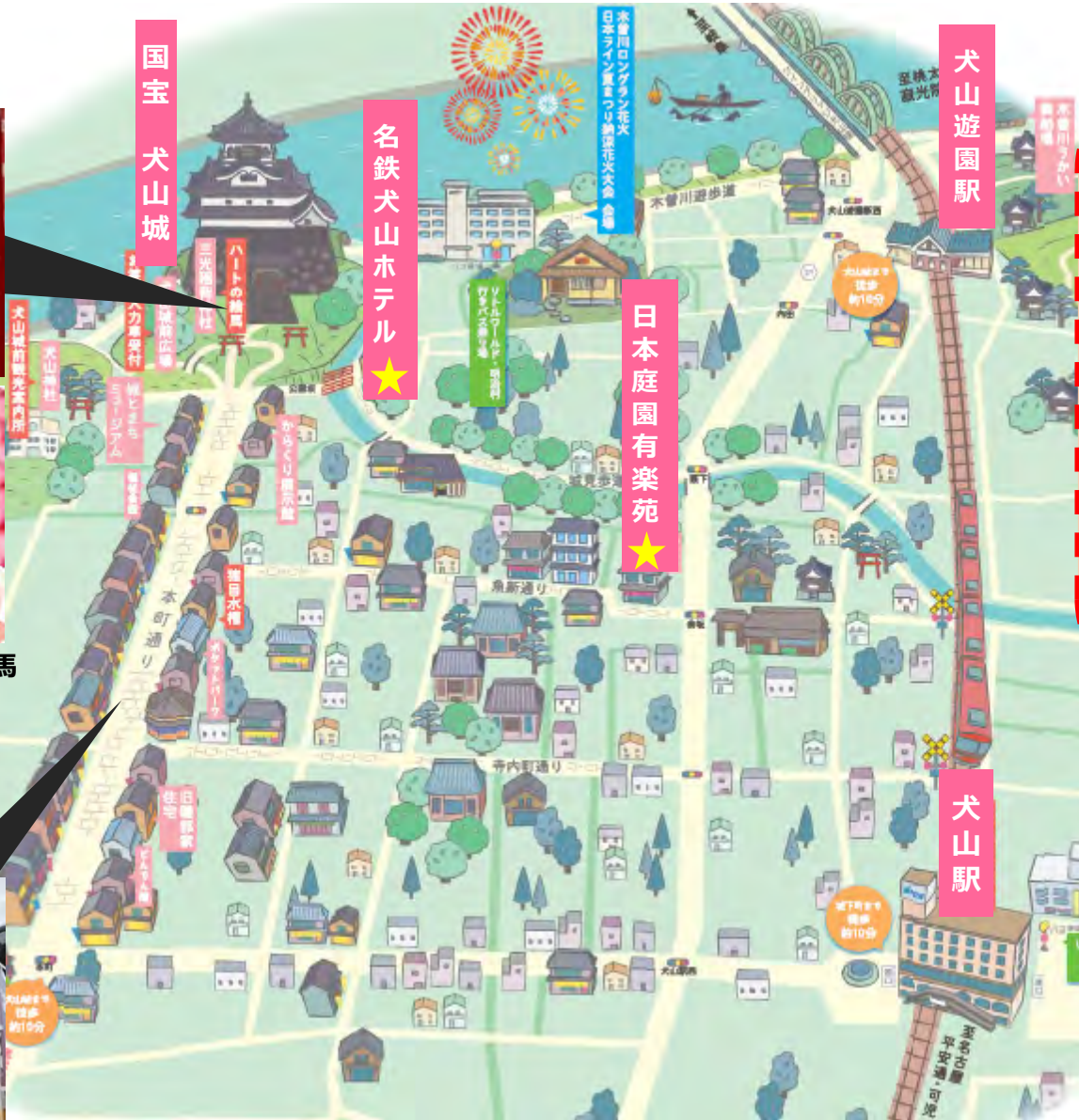
当社は豊かな歴史と情緒のある犬山エリアにおいて、レジャー・文化的施設を運営するなど、グループ全体で需要の取込みを図っている。

三光稲荷神社



Instagramで人気のハート形絵馬

犬山城下町～本町通り～



犬山市東部エリア

博物館 明治村★



明治期の建物を中心に「明治」を見て、触れて、味わう、体験型の野外博物館。

- ・展示建造物 67棟
- ・重要文化財 11件
- ・県指定文化財 1件
- ◎公益財団法人明治村が運営



野外民族博物館 リトルワールド★



世界のグルメや買物、民族衣装が体験できる文化テーマパーク。

★・・・当社グループ施設

ホテルごとに位置づけを明確にし、各戦略に基づいた対応をしていくことにより、収益力の向上に取り組む。

➤ ホテル・観光施設への積極的な投資

昇龍道エリアでの新規出店

●中部国際空港セントレアホテルPacific Side (新棟)
(2018年10月開業)



※写真右側がPacific Side(新棟)
建物規模：地上11階
総客室数：160室

空港ターミナルビルと直結し、中部国際空港駅の改札から100m、空港チェックインカウンターまで130mの好アクセス。



●ハローキティルーム

世界中で親しまれ、アジア圏でも人気のキャラクターとのコラボにより、増加する近隣国からの訪日観光客を取込む。



©1976, 2018 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. G591625

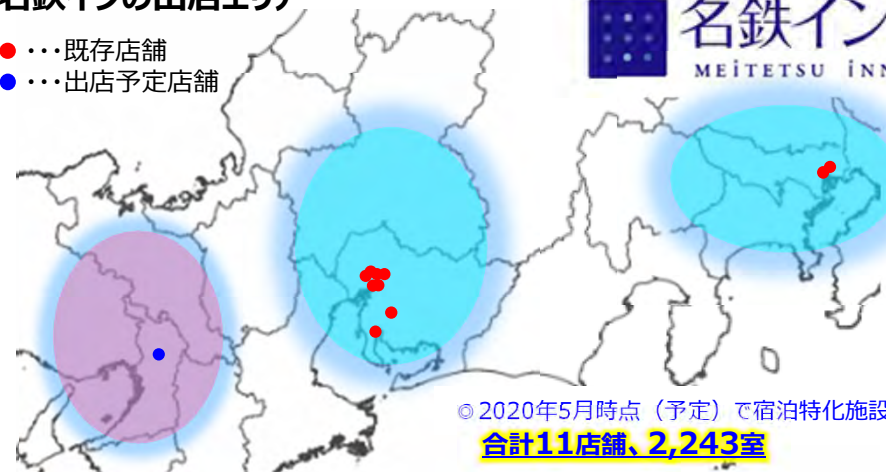
重点エリア※における更なる新規出店を検討していく

※重点エリア 「中部国際空港エリア」、「犬山エリア」、「飛騨・高山エリア」、「南信州エリア」、「金沢エリア」

宿泊特化型ホテルの展開強化

●名鉄インの出店エリア

- ・・・既存店舗
- ・・・出店予定店舗



出典：国土地理院WEBサイト (<http://maps.gsi.go.jp/>) をもとに当社にて加工

関西圏第1号店

「名鉄イン新大阪(仮称)」
(2020年5月開業予定)



【所在】
「新大阪駅」徒歩3分
【建物規模】
地上10階
【総客室数】
120室

関西圏での「収益力」と「ブランド力」のアップを図る

「名鉄イン名古屋金山アネックス」

(2018年10月開業)



【所在】
「金山駅」徒歩3分
【建物規模】
地上13階
【総客室数】
168室

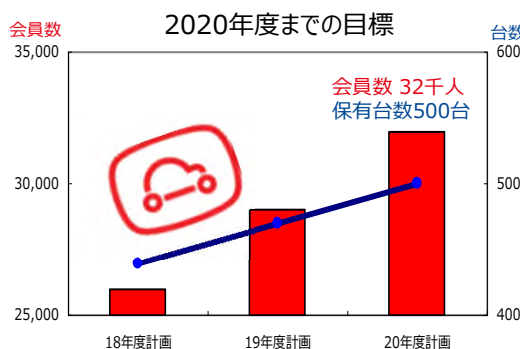
今後も1年1店舗の目標で拡大を計画

高齢層や若者を中心に進みつつある都心居住の動きや、車を保有しないライフスタイルへの変化に対応するためにカーシェアリング事業を着実に推進するとともに、他社との提携によって認知度の向上と利用機会の促進を図る。

➤ 駐車場事業を活用したカーシェアリング事業の推進

カーシェア会員数・保有台数の実績・目標

	2018年度 上期実績
カーシェア会員数 (人)	25,425
保有台数 (台)	403



既存駐車場等を活かして主に名古屋市を中心
にカーシェアステーション
エリア(拠点)を順次拡大

エリア拡大が利用機会の
増加につながるから
今後も「着実に推進」する

カーシェアステーション
327か所(2018年9月現在)
(愛知・岐阜・三重・静岡)

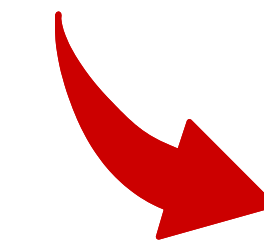


➤ 他社との提携によるビジネス機会の拡大

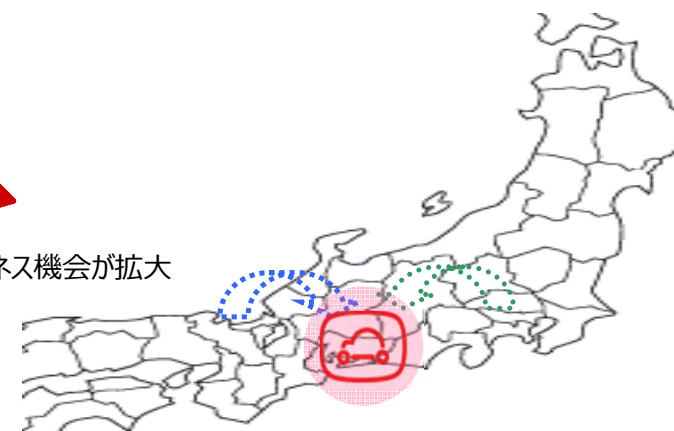
(株)NTTドコモが、「dカーシェア」で提供するカーシェアに「カレコ・カーシェアリングクラブ(三井不動産リアルティ(株))」と「カリテコ(名鉄協商)」を追加 (株)NTTドコモ発表資料)



今回の提携により、dカーシェアのユーザーに
対する「カリテコ」ブランドの認知度が高まり、
全国各地から来訪される方を含め、多くの方に
利用して頂く機会が増えることを期待



dカーシェアによりビジネス機会が拡大



➤ 東海地区以外へのステーションの拡大

11月に東海地区(愛知・岐阜・三重・静岡)以外、初となる金沢市内
にステーションをオープン。

グループ資産の有効活用や成長事業の拡大等を通して、収益力の強化を図る。

◎グループ資産の有効活用



イメージパース



イメージパース

メイツ深川住吉 (2020年3月引渡開始予定)

所在地：東京都江東区扇橋
(東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「住吉」駅徒歩7分)

建物規模：敷地面積 11,138.00㎡、延床面積 40,601.49㎡
鉄筋コンクリート造、地上15階建、444戸

・総戸数444戸の大型物件であり、3階建ての共用棟はTSUTAYAとコラボレーション

名鉄不動産が事業用土地（運送）を分譲マンションとして再開発

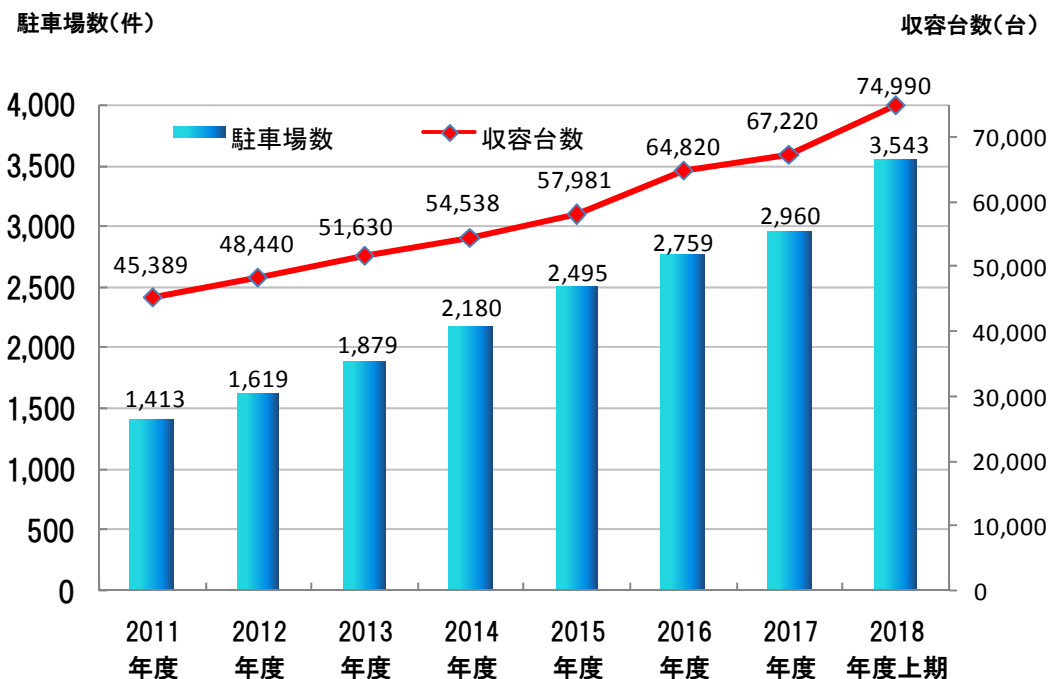
◎東京圏での駐車場事業の拡大

・2017年11月に「(株)バイク王&カンパニー」より「パーク王」ブランドで展開していた駐車場事業を買収（約180か所の駐車場を取得）

・2018年8月には「(株)セイガン」より駐車場事業（約130か所の駐車場を取得）を買収し、「名鉄協商パーキングWEST」を設立

東京圏の駐車場事業を拡大し、「名鉄協商パーキング」のブランドを定着させる

【名鉄協商 駐車場の運営件数・台数】



① 健康経営の推進

従業員が長く健康で働ける環境づくりを目指し、生活習慣病、喫煙やメンタルヘルスなどに関する対策に取り組む「ずっと活躍！みんな健康プロジェクト」を開始

重点施策(主なもの)

項目	主な実施事項
傷病(早期発見)対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢別人間ドック補助対象(自己負担なし)に60才を追加 ● 人間ドック、大腸がん検診並びに乳がん・子宮がん検診の受診を促進
「生活習慣病」対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 40才未満の肥満、有所見者に対し、特定保健指導に準じ生活習慣改善のサポートを実施 ● 社員食堂におけるヘルシーメニュー及び食の健康情報などの提供
「喫煙(受動喫煙含む)」対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 禁煙チャレンジ参加者を拡大 ● 「喫煙をはじめない・再開しない」のPRを推進 ● 喫煙環境(設備、利用時間など)の見直しを実施
「メンタルヘルス」対策	<ul style="list-style-type: none"> ● メンタルヘルスケアを啓蒙するためのハンドブックを作成し配布 ● メンタルヘルスケア保健相談を産業医・保健師により実施
部署(職場)での健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康増進活動及び職場内コミュニケーション活動などの実施 ● 外部講師による健康教室の開催及び参加者拡大

プロジェクト実施目標

- ◆ BMI有所見率(25.0以上)を低減する
- ◆ 喫煙率を低減する(当社平均で1%減へ)
- ◆ 健康診断で受診指示を受けたら必ず受診する(100%受診)

② 働き方改革の推進

「人材の確保・定着」「生産性向上」に向けて、職務毎の業務の性質や特徴に応じた「働き方改革」を推進

⇒ 本社部門におけるメリハリある働き方への意識向上や職場風土の醸成に向けた取組みを開始。従業員にとって柔軟な働き方ができるよう制度の充実を図る。

⇒ 契約企業の従業員を対象に利用してもらえる企業主導型保育所を設置し、仕事と子育てを両立する世帯を支援。

女性活躍推進の取組み

◆ 基本方針

与えられた役割を性差等を問わず従業員が最大限発揮し、長期にわたり組織に貢献する仕組みをつくる

◆ 基本施策

- ① 経営層のリーダーシップ
- ② 女性従業員の積極的な採用
- ③ 定着に向けた仕組みづくり
- ④ 従業員のキャリア形成



- ・めいてつ保育ステーション「名駅ぽっぽ園」
- ・2018年3月オープン
- ・名鉄百貨店メンズ館南館2階に設置

・AI,RPAの導入による業務効率化

付加価値の向上や仕事の効率化を図るため、ICT、AI、RPAの活用による生産性の向上と業務の高度化に取り組む。

➤ 取組み事例

AI

□ 名鉄チャットボットサービス(会話型AI)

ダイヤや運賃の検索等において、利便性の向上また今後想定される要員不足への対応も踏まえ、AIによる支援サービスの可能性を検証する。

◆ 試験運用期間

2018.10.4～約3ヶ月間

◆ 実施内容

- ①ダイヤ検索
- ②運賃検索
- ③Q & A
- ④雑談
- ⑤電車占い

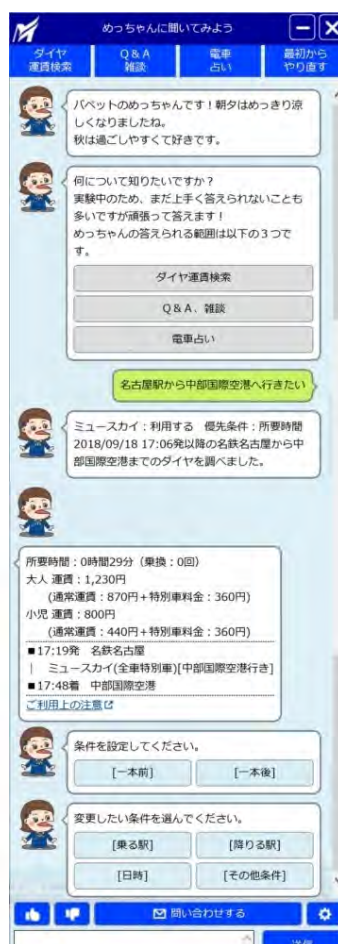
◆ 導入媒体

- ・名古屋鉄道ホームページ
- ・名鉄Touch
- ・ミュースターポイントサイト
- ・ミュースターTouch

チャットボットキャラクター
パペットのめっちゃん



【チャット画面イメージ】



RPA

□ 名鉄グループへのRPA導入

当社をはじめパソコン作業による日常的な定型業務のRPAによる自動化により、効率化につなげる。AI技術の活用などにより段階的に高度化を進めていく。

※2018年秋より順次導入開始

◆ 活用事例 大量データの登録、数値のチェック等

◆ 今後の展望

【Class2】例外対応や非定型業務の自動化
【Class3】プロセス改善、意思決定の自動化

現段階

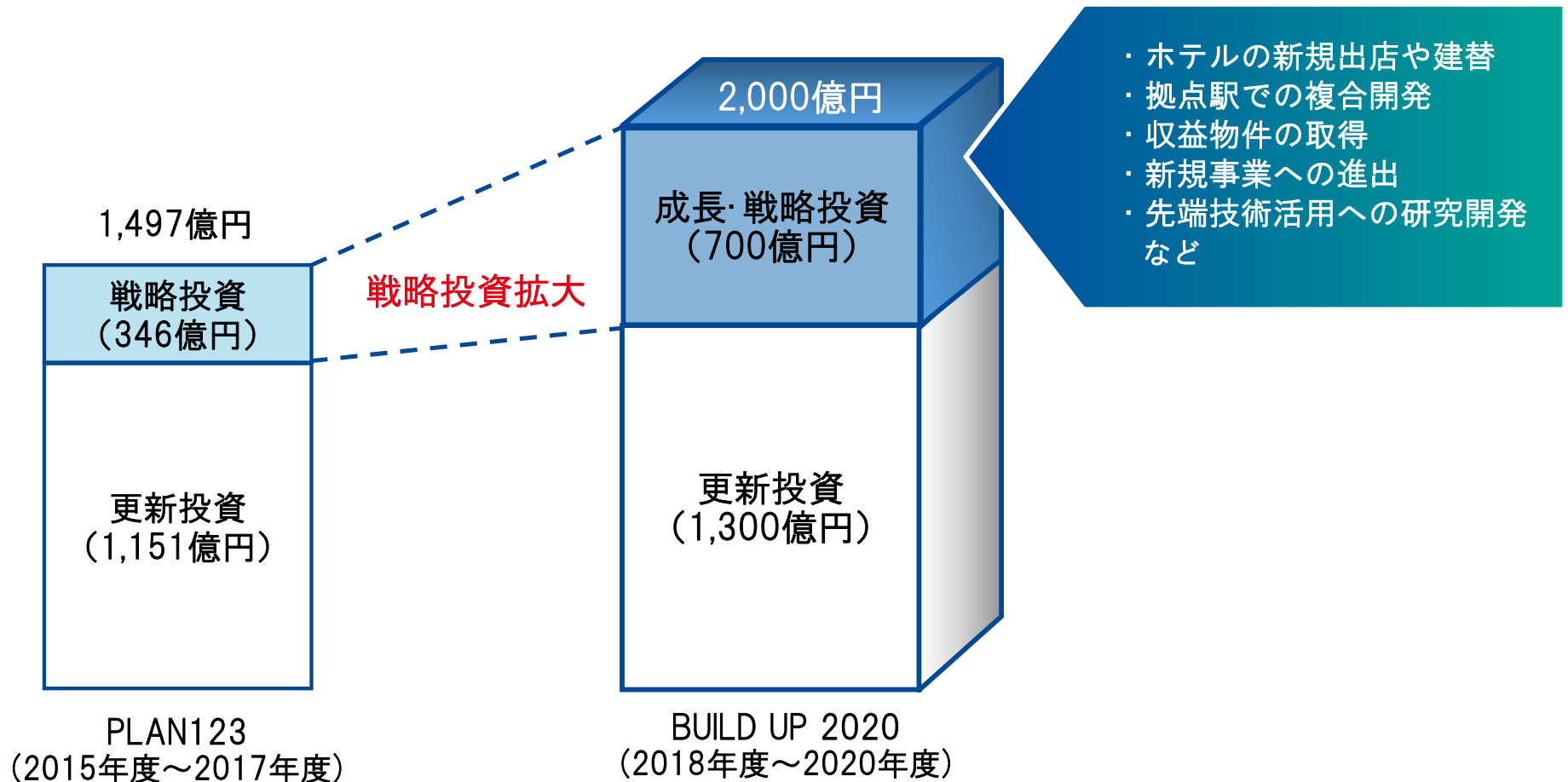
●【Class1】
定型作業の
自動化

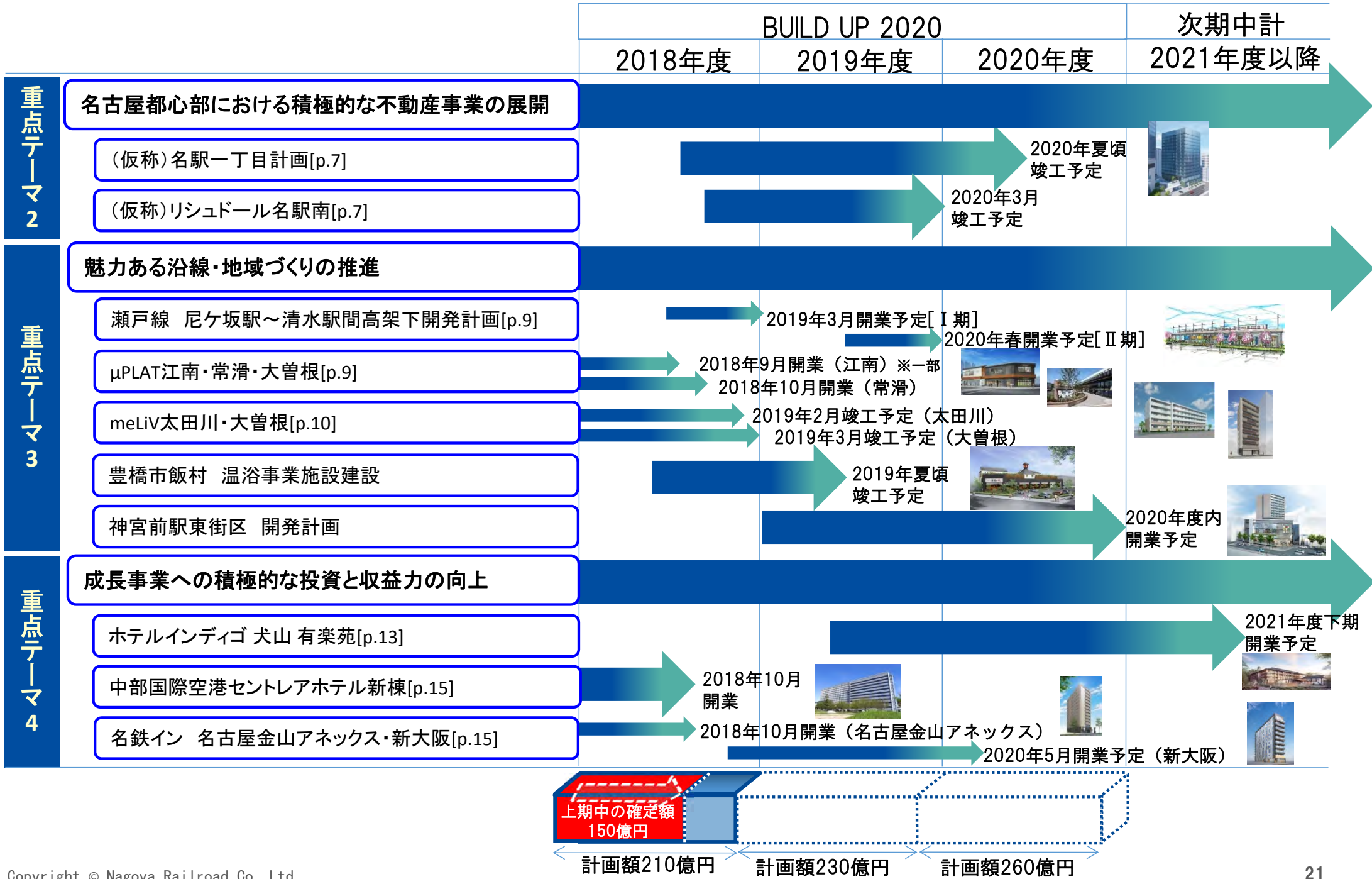
●【Class2】
一部非定型
業務の
自動化

●【Class3】
高度な
自動化

今後加速していく人口減少、少子高齢化時代においても、持続的な成長を目指すために、成長事業の拡張、新たなビジネス領域の開拓、生産性の向上などに向けた積極的な投資を実施する。
特に、収益力向上に資する「成長・戦略投資」枠については、「PLAN123」の346億円から「BUILD UP 2020」では、700億円へ拡大する。

➤ 投資金額の推移





03**2019年3月期 第2四半期 決算実績**

() は増減率

※5月時点 (単位: 百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減	摘 要	前回予想 (※)	増減	前回予想との差異
営業収益	295,630	294,530	1,099 (0.4)		295,000	630 (0.2)	不動産事業で減収となったものの 運送事業・流通事業で増収
営業費用	271,027	269,123	1,903	燃料費 +1,156	272,500	△ 1,472	
営業利益	24,603	25,407	△ 804 (△3.2)		22,500	2,103 (9.3)	運送事業・レジャー・サービス事業 を除き増益
経常利益	25,572	26,474	△ 902 (△3.4)	営業外収益 △111 (持分法による投資利益 △167) 営業外費用 △14 (支払利息 △165)	23,000	2,572 (11.2)	営業外収益+426 営業外費用△42
特別利益	558	776	△ 218	固定資産売却益 △306	1,000	△ 441	工事負担金等受入額の減少
特別損失	1,314	1,192	121	整理損失引当金繰入額 +560	1,500	△ 185	減損損失の減少
税金等調整前 四半期純利益	24,816	26,057	△ 1,241 (△4.8)		22,500	2,316 (10.3)	
法人税等	7,407	7,630	△ 222		7,300	107	
非支配株主利益	1,414	1,551	△ 136		1,200	214	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,993	16,875	△ 882 (△5.2)		14,000	1,993 (14.2)	

燃料費(鉄道電力料含む)の四半期別増減(対前年同期比)内訳・・・1Q+454 2Q+702

【連結子会社および持分法適用会社の異動状況(対前期末)】

- ◆連結子会社116社(△3社): 増加1社 名鉄協商パーキングWEST(新規加入)
減少4社 北陸名鉄急配(被合併)、名鉄協商パーキング(被合併)
名鉄バス中部(被合併)、名鉄バス東部(被合併)

- ◆持分法適用会社16社(増減なし)

対前年同期：増収・減益（流通事業やトラック事業での増収を主因に増収となったものの、不動産事業の減益や燃料費の増加等により減益）

営業収益	+10億円	<ul style="list-style-type: none"> + その他物品販売+42（建設資材取扱の増加など） + トラック事業+19（セグメント内取引消去後〈運賃単価の上昇〉） + 鉄軌道事業+6（輸送人員+1.3%） - 不動産事業▲43（マンション販売の減収▲52：販売戸数483戸→320戸） 	（単位：億円）
営業費用	+19億円	<ul style="list-style-type: none"> + 燃料費+11（交通事業+5.5、運送事業+6） + 減価償却費+5（交通事業+1、流通事業+2） 	
営業利益	▲8億円	<ul style="list-style-type: none"> - 不動産分譲業▲7（減収による減益） - レジャー・サービス事業▲1（天候不順を主因とした減収による） 	
経常利益	▲9億円	営業減益に加え、持分法投資利益の減少（▲1）などにより営業外損益が悪化▲1	
最終利益	▲8億円	特別損益の悪化▲3：整理損失引当金繰入額の増加+5（名鉄犬山ホテル建替えに伴う撤去費など）	

対前回（5月）予想：増収・増益（流通事業やトラック事業を中心に収入は上振れ、修繕費や人件費等の減少により営業利益も上振れ）

営業収益	+6億円	<ul style="list-style-type: none"> + その他物品販売事業+11（建設資材取扱の増加など） 	
営業費用	▲14億円	<ul style="list-style-type: none"> - 修繕費▲10 人件費▲2 	
営業利益	+21億円	<ul style="list-style-type: none"> + 不動産事業+7（駐車場事業の増収や修繕費の減少に加え、マンション販売の利益率上振れ） + 航空関連サービス事業+7（修繕費、人件費等の減少） + 交通事業+5（鉄軌道事業+7：修繕費等減少） 	
経常利益	+25億円	持分法投資利益の増加などにより営業外損益が改善 +4	
最終利益	+19億円	特別損益の悪化 ▲2.5：特別利益▲4（工事負担金等受入額の下期への期ズレなど）	

セグメント別営業成績



※5月時点

(単位：百万円、%)

営業収益	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	前回予想(※)	増減額	増減率
交通事業	84,298	84,091	207	0.2	84,700	△ 402	△ 0.5
運送事業	67,921	65,803	2,117	3.2	66,900	1,021	1.5
不動産事業	38,596	42,970	△ 4,373	△ 10.2	41,000	△ 2,404	△ 5.9
レジャー・サービス事業	26,435	27,881	△ 1,445	△ 5.2	27,200	△ 765	△ 2.8
流通事業	67,586	63,453	4,132	6.5	65,800	1,786	2.7
航空関連サービス事業	12,038	11,394	644	5.7	12,000	38	0.3
その他の事業	19,773	19,261	512	2.7	19,600	173	0.9
調整額	△ 21,020	△ 20,326	△ 694	—	△ 22,200	1,180	—
合計	295,630	294,530	1,099	0.4	295,000	630	0.2

営業利益	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	前回予想(※)	増減額	増減率
交通事業	13,814	13,534	280	2.1	13,300	514	3.9
運送事業	3,515	3,426	88	2.6	3,600	△ 85	△ 2.4
不動産事業	4,546	5,321	△ 774	△ 14.6	3,800	746	19.6
レジャー・サービス事業	991	1,140	△ 148	△ 13.0	1,100	△ 109	△ 9.9
流通事業	332	389	△ 56	△ 14.5	300	32	10.7
航空関連サービス事業	1,211	1,109	101	9.2	500	711	142.2
その他の事業	△ 60	199	△ 260	—	△ 200	140	—
調整額	250	285	△ 34	—	100	150	—
合計	24,603	25,407	△ 804	△ 3.2	22,500	2,103	9.3

<前年同期比>

「交通事業」、「運送事業」、「航空関連サービス事業」で増収・増益
 「流通事業」、「その他の事業」で増収・減益
 「不動産事業」、「レジャー・サービス事業」で減収・減益

【注】 第1四半期より新たな事業セグメント区分に変更しております。前年同期の数値は新たなセグメント区分に基づくものです。

(単位：百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	84,298	84,091	207	0.2	鉄軌道事業における輸送人員の増加により増収
営業利益	13,814	13,534	280	2.1	燃料費は増加したものの、鉄軌道事業における増収と人件費の減少により増益

◆交通事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率
鉄軌道事業	48,438	47,810	628	1.3	10,870	10,070	800	7.9
バス事業	23,481	24,434	△ 953	△ 3.9	2,146	2,639	△ 493	△ 18.7
タクシー事業	14,485	14,858	△ 373	△ 2.5	728	742	△ 14	△ 1.9
調整額	△ 2,106	△ 3,012	905	—	69	81	△ 12	—
交通事業計	84,298	84,091	207	0.2	13,814	13,534	280	2.1

<名古屋鉄道 運輸成績>

(単位：百万円、%)

(単位：千人、%)

旅客収入				輸送人員			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減率		2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減率
定期外	24,948	24,703	1.0	定期外	63,130	62,843	0.5
通勤	16,335	16,073	1.6	通勤	82,661	81,087	1.9
通学	3,855	3,797	1.5	通学	53,837	53,068	1.4
定期	20,190	19,871	1.6	定期	136,498	134,155	1.7
計	45,138	44,574	1.3	計	199,628	196,998	1.3

(注)定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

(単位：百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	67,921	65,803	2,117	3.2	トラック事業における運賃単価の上昇を主に増収
営業利益	3,515	3,426	88	2.6	燃料費や人件費は増加したものの、増収により増益

◆運送事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率
トラック事業	78,257	75,665	2,592	3.4	2,403	2,341	62	2.6
海運事業	8,640	8,509	131	1.5	1,083	1,055	27	2.6
調整額	△ 18,977	△ 18,370	△ 606	—	28	29	△ 0	—
運送事業計	67,921	65,803	2,117	3.2	3,515	3,426	88	2.6

(単位：百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	38,596	42,970	△ 4,373	△ 10.2	賃貸事業において駐車場数の増加や新規賃貸物件の収益寄与があったものの、分譲マンションの販売引渡戸数の減少により減収
営業利益	4,546	5,321	△ 774	△ 14.6	減収による減益

◆不動産事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率
不動産賃貸業	22,731	21,932	798	3.6	4,554	4,537	17	0.4
不動産分譲業	11,973	17,181	△ 5,207	△ 30.3	△ 252	494	△ 746	—
不動産管理業	7,263	7,058	205	2.9	267	315	△ 47	△ 15.2
調 整 額	△ 3,370	△ 3,201	△ 169	—	△ 23	△ 26	2	—
不動産事業 計	38,596	42,970	△ 4,373	△ 10.2	4,546	5,321	△ 774	△ 14.6

<名鉄不動産のマンション分譲戸数>

(単位：戸数、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減率
マンション引渡戸数(計)	320	483	△ 33.7
名古屋	56	102	△ 45.1
東京	197	288	△ 31.6
大阪	67	93	△ 28.0

<名鉄協商の駐車場保有台数・件数>

(単位：%)

	2019/03 第2四半期	2018/03 第2四半期	増減率
保有台数(台)	74,990	67,259	11.5
保有件数(ヶ所)	3,543	2,855	24.1

(単位：百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	摘要
営業収益	26,435	27,881	△ 1,445	△ 5.2	名鉄インの新規出店などによりホテル業では増収となったものの、観光施設事業における子会社譲渡に加え、天候不順に伴う減収などにより全体では減収
営業利益	991	1,140	△ 148	△ 13.0	ホテル業での新規出店費用の増加や観光施設事業での減収により減益

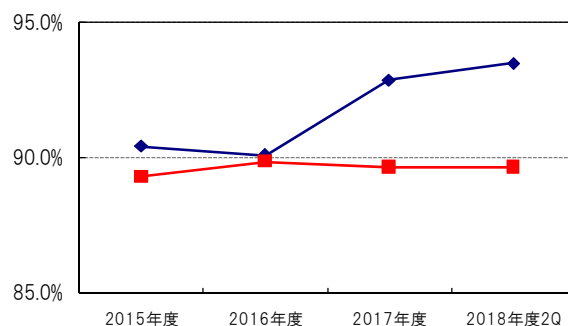
◆レジャー・サービス事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

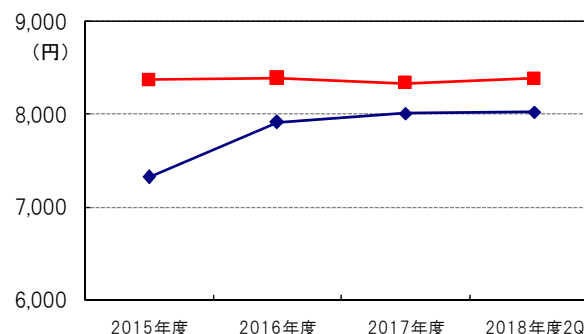
	営業収益				営業利益			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率
ホテル業	9,479	9,075	403	4.4	737	778	△ 41	△ 5.3
観光施設事業	10,815	12,616	△ 1,801	△ 14.3	616	780	△ 164	△ 21.0
旅行業	6,494	6,527	△ 32	△ 0.5	△ 372	△ 428	56	—
調整額	△ 353	△ 338	△ 15	—	10	10	△ 0	—
レジャー・サービス事業計	26,435	27,881	△ 1,445	△ 5.2	991	1,140	△ 148	△ 13.0

<名古屋市主要グループホテルの稼働率・宿泊単価・外国人宿泊比率> ◆ビジネスホテル ◆シティホテル

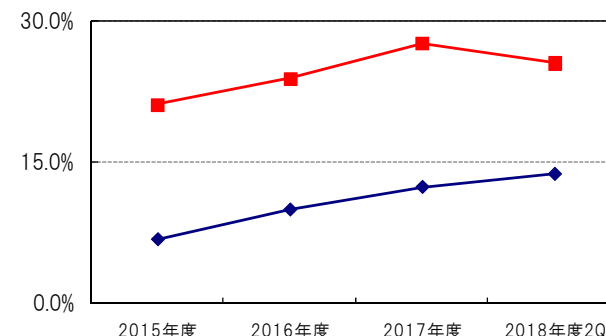
(1) 宿泊稼働率



(2) 宿泊単価



(3) 外国人宿泊比率



(単位：百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	67,586	63,453	4,132	6.5	百貨店業では減収となったものの、建設資材取扱の増加や石油販売価格の上昇もあり、全体では増収
営業利益	332	389	△ 56	△ 14.5	駅店舗事業や輸入車販売業における利益率の悪化などにより減益

◆流通事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率
百貨店業	30,784	30,950	△ 165	△ 0.5	△ 154	△ 340	186	—
その他物品販売	37,270	33,009	4,261	12.9	403	582	△ 179	△ 30.8
調整額	△ 468	△ 505	37	—	83	147	△ 63	—
流通事業計	67,586	63,453	4,132	6.5	332	389	△ 56	△ 14.5

(単位：百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	12,038	11,394	644	5.7	航空整備事業やケータリング事業での受注増加などにより増収
営業利益	1,211	1,109	101	9.2	増収による増益

◆航空関連サービス事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率
航空関連サービス事業	12,146	11,551	595	5.2	1,207	1,105	101	9.2
調整額	△ 108	△ 157	49	—	4	4	0	—
航空関連サービス事業 計	12,038	11,394	644	5.7	1,211	1,109	101	9.2

(単位：百万円、%)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	19,773	19,261	512	2.7	設備工事の受注増加などにより増収
営業利益	△ 60	199	△ 260	—	新規事業拡大に伴う費用の増加、 設備工事の収支悪化などにより減益

◆その他の事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	増減率
設備保守整備事業	11,386	11,134	252	2.3	△ 19	44	△ 63	—
その他事業	8,706	8,488	217	2.6	△ 15	150	△ 166	—
調整額	△ 318	△ 361	42	—	△ 26	4	△ 30	—
その他の事業 計	19,773	19,261	512	2.7	△ 60	199	△ 260	—

(単位：百万円)

	2019/3 第2四半期	2018/3 第2四半期	増減額	摘 要
営業外収益	3,126	3,237	△ 111	
受取利息	13	12	1	
受取配当金	1,161	1,122	39	
持分法による投資利益	1,149	1,317	△ 167	
その他	800	785	15	
営業外費用	2,157	2,171	△ 14	
支払利息	1,752	1,917	△ 165	
その他	404	253	151	
営業外損益 計	968	1,066	△ 97	
特別利益	558	776	△ 218	
固定資産売却益	369	676	△ 306	(前期) 賃貸資産
工事負担金等受入額	132	47	85	
投資有価証券売却益	14	3	11	
その他	41	49	△ 7	
特別損失	1,314	1,192	121	
整理損失引当金繰入額	560	—	560	(当期) 名鉄犬山ホテル解体費引当
減損損失	246	707	△ 460	(前期) 遊休資産
固定資産売却損	121	118	3	
工事負担金等圧縮額	103	44	59	
その他	282	323	△ 41	
特別損益 計	△ 755	△ 416	△ 339	

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2019/03 第2四半期	2018/03 期末	増減額	摘 要								
流動資産	184,650	178,036	6,614	分譲土地建物の増加								
固定資産	946,565	942,585	3,979	<table border="1"> <tr> <td>設備投資</td> <td>+20,325</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>△19,488</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>△246</td> </tr> <tr> <td>除却</td> <td>△222</td> </tr> </table>	設備投資	+20,325	減価償却費	△19,488	減損損失	△246	除却	△222
設備投資	+20,325											
減価償却費	△19,488											
減損損失	△246											
除却	△222											
有形固定資産	792,084	789,302	2,781									
無形固定資産	8,472	8,804	△332									
投資その他の資産	146,008	144,478	1,529									
資産合計	1,131,215	1,120,622	10,593									
流動負債	257,157	259,686	△2,528	支払手形及び買掛金の減少								
固定負債	469,693	471,380	△1,686	長期借入金の減少								
負債合計	726,851	731,066	△4,215									
純資産合計	404,364	389,555	14,808	株主資本 +13,013 親会社株主に帰属する四半期純利益 +15,993 剰余金の配当 △5,237								
負債純資産合計	1,131,215	1,120,622	10,593									
連結有利子負債合計	450,134	445,568	4,566	〔参考〕純有利子負債残高 417,089 (前期末比 +3,110)								

04 2019年3月期 業績予想

通期の連結・個別業績予想ともに前回公表値（2018年5月9日）より
修正は行っておりません。

(参考)2019年3月期 連結業績予想 [5月9日公表値]

(単位：百万円、%)

	2019/3 予想	2018/3 実績	増減額	増減率	中期経営計画 における 2021/3目標
営業収益	609,000	604,804	4,196	0.7	—
営業利益	45,500	46,976	△ 1,476	△ 3.1	50,000
営業外収益	5,000	6,292	△ 1,292		—
営業外費用	4,500	4,701	△ 201		—
経常利益	46,000	48,566	△ 2,566	△ 5.3	—
特別利益	2,500	3,456	△ 956		—
特別損失	5,000	6,606	△ 1,606		—
親会社株主に帰属する 当期純利益	27,000	28,691	△ 1,691	△ 5.9	—
E B I T D A	85,500	85,882	△ 382	△ 0.4	93,000
設備投資額	69,800	52,236	17,564	33.6	—
減価償却費	40,000	38,906	1,094	2.8	—
純有利子負債	418,000	413,978	4,022	1.0	—

(参考)業績予想ポイント [5月9日公表値]



対前期：増収・減益。全セグメントで増収の一方、不動産事業において諸経費の増加を見込み、減益の見通し。

(単位：億円)

<p>営業収益 +41億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> + 運送事業+17 (海運事業+9：前年の天候不順等からの回復と貨物輸送量増加 トラック事業+8：運賃単価上昇) + 不動産事業+16 (賃貸業+9：前年11月に買収した「パーク王」の通期収益寄与を含めた駐車場事業の拡大 および新規賃貸物件の収益寄与 分譲業+7：マンション販売戸数980戸→998戸) + 鉄軌道事業+10 (輸送人員+1.2%) + ホテル事業の新規出店増収+12.5 (ホテルミュッセ銀座名鉄(18年3月)、名鉄イン名古屋金山アネックス(18年10月)、セントレアホテル新棟(18年10月))
<p>営業利益 ▲14億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 不動産事業▲19(分譲業▲10：マンション販売利益率低下および販売経費増加 賃貸業▲7：修繕費等諸経費増加) - 人件費 +11 (交通事業での退職給付費用が減少の一方、運送事業等を中心に給与賞与手当などが増加) - 燃料費※ +10 (運送事業+6 交通事業+4) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>※燃料費の計画前提…WTI: 60\$/バレル 為替相場: 113円/\$</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> - 減価償却費 +11 (不動産事業+4 運送事業+3) - 修繕費 +8 (不動産事業+5)
<p>経常利益 ▲25億円</p>	<p>持分法投資利益の減少などにより営業外損益が悪化 ▲11</p>
<p>最終利益 ▲16億円</p>	<p>特別損益の改善 +6.5 (減損損失の減少+32 投資有価証券売却益の減少▲10)</p>

◆名古屋鉄道運輸成績(予想)

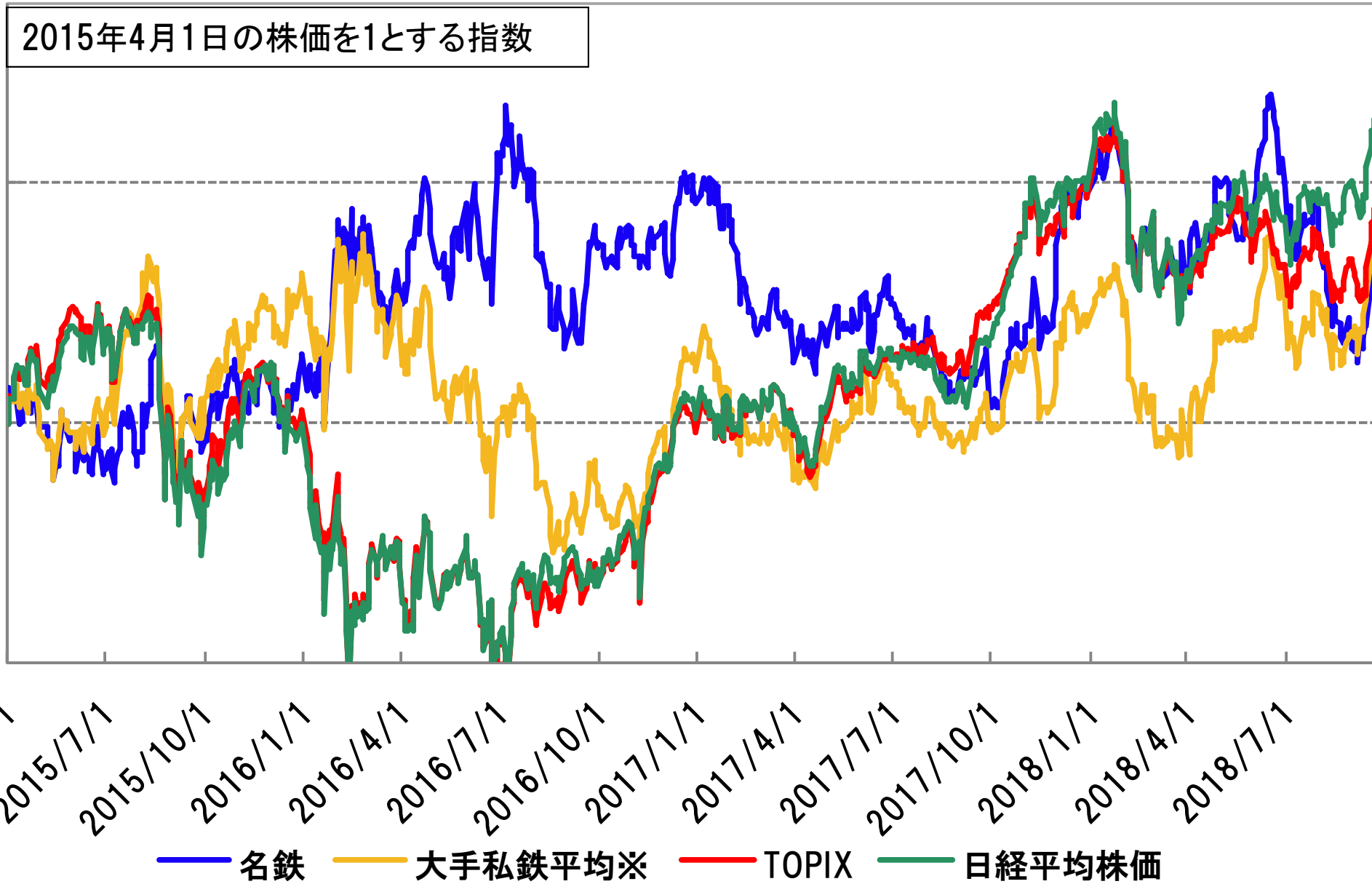
旅客収入	(単位：百万円、%)			輸送人員	(単位：千人、%)		
	2019/3 予想	2018/3	増減率		2019/3 予想	2018/3	増減率
定期外	49,884	49,351	1.1	定期外	126,497	125,789	0.6
定期	39,535	39,023	1.3	定期	265,211	261,085	1.6
計	89,420	88,374	1.2	計	391,708	386,874	1.2

(注)定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

(参考)2019年3月期 セグメント別営業成績予想 [5月9日公表値]

(単位：百万円、%)

営業収益	2019/3 予想	2018/3 実績	増減額	増減率	摘 要
交通事業	168,300	167,045	1,255	0.8	鉄軌道事業での増収
運送事業	133,900	132,191	1,709	1.3	貨物取扱量の増加及び運賃単価の上昇により増収
不動産事業	90,800	89,158	1,642	1.8	賃貸事業での駐車場事業の拡大及び新規賃貸物件の収益寄与に加え、分譲マンション販売戸数の増加により増収
レジャー・サービス事業	54,500	54,234	266	0.5	前期におけるレンタカー子会社譲渡に伴う収入の剥落がある一方、ホテル業における新規出店効果により僅かに増収
流通事業	134,800	134,453	347	0.3	百貨店で減収を見込むものの、石油販売価格の上昇や、輸入車販売業の増収により、全体では僅かに増収
航空関連サービス事業	25,600	25,245	355	1.4	報道ヘリ運航受託の増収
その他の事業	45,900	44,735	1,165	2.6	設備保守事業での増収
調整額	△ 44,800	△ 42,260	△ 2,540	—	
合計	609,000	604,804	4,196	0.7	
営業利益	2019/3 予想	2018/3 実績	増減額	増減率	摘 要
交通事業	24,300	23,942	358	1.5	燃料費の増加を見込むものの、鉄軌道事業の増収により増益
運送事業	5,700	5,690	10	0.2	人件費や燃料費等の増加により前期並み
不動産事業	8,700	10,602	△ 1,902	△ 17.9	マンション販売利益率の低下に加え、修繕費等諸経費の増加により減益
レジャー・サービス事業	1,900	1,509	391	25.9	観光施設業の増収による増益
流通事業	1,500	1,266	234	18.5	増収による増益
航空関連サービス事業	1,600	1,953	△ 353	△ 18.1	整備事業での減収及び諸経費の増加により減益
その他の事業	1,300	1,585	△ 285	△ 18.0	新規事業の拡大に伴う費用増加等により減益
調整額	500	426	74	—	
合計	45,500	46,976	△ 1,476	△ 3.1	



(©日本経済新聞社)

※東武・相鉄・東急・京急・小田急・京王・京成・西武・近鉄・阪急阪神・南海・京阪・西鉄・名鉄の計14社平均



本資料の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、リスクや不確実性を含んだものです。実際には、様々な要因により異なる結果となる場合があることをご承知おきください。